

2 液硬化形

抗ウイルス塗料

フォルシード

No. 915M-SA1



有機系・本体・分散
JP0612857X0001L

製品上の特定ウイルスの数を減少させます

SIAAマークはISO21702法により評価された結果に基づき、
抗菌製品技術協議会ガイドラインで品質管理・情報公開
された製品に表示されています。

！ 注意事項

抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません
SIAAの安全性基準に適合しています



中国塗料株式会社

フォルシードNo. 915M-SA1 概要

このたび無加工品に比べ、製品表面に付着した特定のウイルスの数を減少させる効果をもつ、2液硬化形の抗ウイルス塗料『フォルシードNo. 915M-SA1』を開発しましたので、以下に説明します。

フォルシードNo. 915M-SA1 特長

- ☆ 抗ウイルス性
- ☆ ソフトタッチ性
- ☆ 耐久性試験後も抗ウイルス性を維持

塗料概要

塗料タイプ	2液硬化形抗ウイルス性塗料	
主剤、硬化剤	フォルシード No.915M-SA1 主剤	フォルシード No.915M 硬化剤
固形分	40%	80%
比重(23℃)	0.985	1.03 g/ml
粘度 (KU、25℃)	84	56
配合溶剤	酢酸ブチル、MIBK	酢酸ブチル

使用上の注意

- ①主剤、硬化剤を規定の比率で均一になるよう、十分攪拌してください。
- ②硬化剤は水分と反応しやすいので、開缶後すみやかに使用してください。
- ③ポットライフに制限がありますので、必要量のみ調合してください。
SDS および容器に表示の注意事項をよく読んで取り扱いください。

適用基材

直接塗装が可能な基材	易接着 PET フィルム ABS ポリカーボネート など
プライマーが必要な基材	ステンレス、アルミ、鉄など

推奨塗装条件

上記の塗装条件検討試験の結果、推奨条件は下記の通りです。

混合比	主剤:硬化剤:硬化調整剤※:希釈溶剤= (4:1:1:1~2)
塗装方法	バーコーター、スプレーなど
希釈溶剤	酢酸ブチルなど
乾燥	80°C × 30 分 (120°C × 4 分、90°C × 2 分 → 120°C × 2 分など)
養生	23°C × 2 日以上 (最良は 1 週間)

※硬化調整剤は硬化を抑制・遅延させるもので、コーターで長時間循環運転する際は反応が進まないように添加が必要となります。

スプレー塗装など塗装時間が短時間(1時間程度)であれば必要はありません。

塗膜性能試験結果

1. 塗装仕様

基材	易接着 PET フィルム (東洋紡製 コスモシャイン A4300(100 μm))
塗装方法	バーコーター
希釈溶剤	酢酸ブチル
塗装時固形分	30%
希釈溶剤	酢酸ブチル
膜厚	12~15 μm
乾燥	80°C × 30 分
養生	23°C × 1 週間

2. 試験項目

試験項目	試験条件	結果
ヘイズ	ヘイズメーターNDH4000(日本電色工業製) における測定値。数値はフィルム込みの値。	92.5%
全光線透過率		97.4%
鉛筆硬度	JIS K5600	2B
耐湿性	50°C・95%RH × 72 時間	異常なし
耐温水性	40°C × 24 時間	異常なし
冷熱サイクル	-40°C × 2 時間 → 80°C × 2 時間 5 サイクル	異常なし
耐薬品性	耐人工汗(酸性人工汗) 25°Cで 1 時間浸漬	異常なし
	耐酸性(5%酢酸水溶液) 25°Cで 1 時間浸漬	異常なし
	耐アルカリ性(1%炭酸ナトリウム) 25°C、1 時間浸漬	異常なし
	耐アルコール性(エタノール)25°C、1 時間	異常なし

3. 抗ウイルス性能

3-1. 抗ウイルス試験方法

抗ウイルス試験方法	ISO21702
未加工フィルム	フォルシード No.915M-SA1 抗ウイルス剤未添加品を使用
持続性試験区分	耐光性区分:2 (サンシャインウエザメーター 80 時間) 耐水性区分:1(常温水 16 時間浸漬)
試験ウイルス	ATCC VR-1679
試験機関	一般財団法人日本繊維製品品質技術センター

3-2. 抗ウイルス試験結果

表 1: 耐水性試験(区分 1)後の抗ウイルス試験結果

試験前処理: 耐水性区分 1			
検体		ウイルス感染価 (PFU/cm ²) 常用対数平均値	抗ウイルス活性値 (R)※
未加工フィルム	接種直後[U ₀]	5.7	-
	24 時間放置後 [U _t]	4.88	-
抗ウイルス加工フィルム (フォルシード No.915M-SA1)	24 時間放置後 [A _t]	1.38	3.5

※抗ウイルス活性値(R) = [U_t] - [A_t]

図 1: 耐水性試験(区分 1)後の抗ウイルス試験結果のグラフ

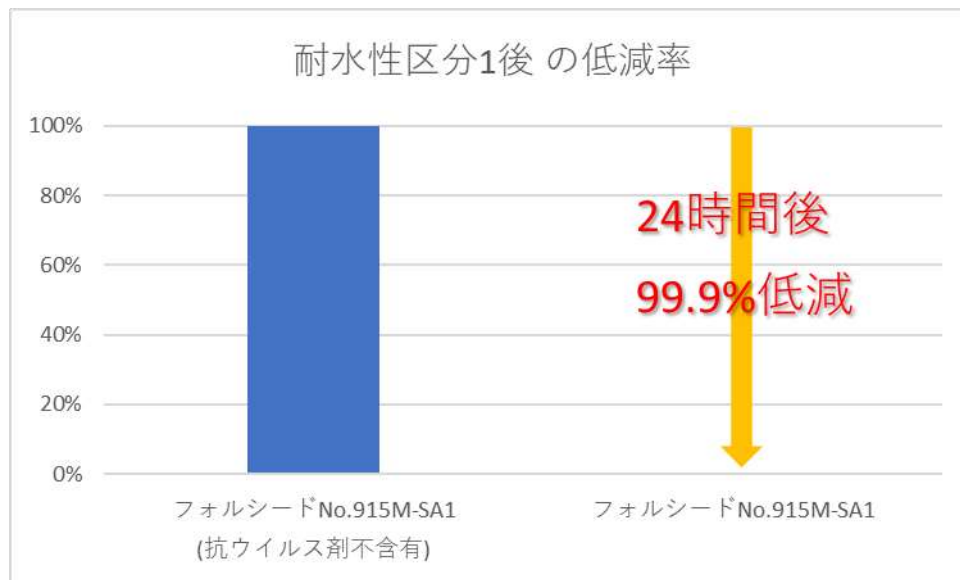


表 2: 耐光性試験(区分 2)後の抗ウイルス試験結果

試験前処理: 耐光性区分 2			
検体		ウイルス感染価(PFU/cm ²) 常用対数平均値	抗ウイルス活性値 (R)
未加工フィルム	接種直後[U0]	5.59	-
	24 時間放置後 [Ut]	3.57	-
抗ウイルス加工フィルム (フォルシード No.915M-SA1)	24 時間放置後 [At]	< 0.8	≥ 2.8

図 2: 耐光性試験(区分 2)後の抗ウイルス試験結果のグラフ

